

専門日本語教育の視点から見た 『自動車整備用語日本語・ベトナム語対照ハンドブック』の編集について

清水勝昭

1. はじめに

2022年2月、株式会社三恵社から『自動車整備用語日本語・ベトナム語対照ハンドブック』が出版された。筆者は中日本自動車短期大学（以下「本学」とする）監修のもとその編集を担ったので、専門日本語教育の視点から編集の経緯及び語彙収集の方針について述べたいと思う。本稿が自動車整備を学ぶ外国人留学生の教育に携わる方々への参考となれば幸いである。

2. 編集の経緯

『自動車整備用語日本語・ベトナム語対照ハンドブック』（以下「本書」とする）は2014年3月に最初の版を発行し、本学の在学生向けの補助教材として使用されてきた。一番左側に見出しとしてのひらがな表記、次に一般的な日本語の表記、一番右側にベトナム語という基本的な体裁は当初より変わっていない。最初の版発行からの8年間に3回の改訂版（2015年版、2018年版、2020年版）が作成され、修正と増補を重ねてきた。

最初の版の作成時より、編集作業にはそのときどきの本学のベトナム人留学生が協力者として参加してきた。2020年版で当初の目標であった収録語彙数が2,000語を超える目途がついたため、2年の編集作業を経て市販が実現した。市販版の編集においては本学と教育交流関係のあったベトナムの大学の教員 Phuoc 氏（自動車工学が専門）にアドバイスをいただくと共に語彙チェックを始めとする一部の編集作業に協力をいただいた。氏は以前に本学へ来学され、本学における自動車整備教育の視察、研修をされたことがある。氏並びに優秀な留学生諸君の協力を得られたことは本学園の長年にわたる国際交流の賜物であると言えよう。

市販版がこれまでの版と大きく異なる点がある。それは本学自動車工学科の学生であった足達 緑次君に手書きのイラストを提供してもらったことである。冒頭の「自動車基礎知識コーナー」全6頁がそれである。编者からの依頼に際し大まかなコンセプトは彼に伝えたが、具体的な内容やレイアウトはお任せした。さすがこれまでに数々のコンテストに出品し秀れた成績を獲得しているだけあって、わずかなアドバイスと修正を要したのみで、编者の期待に届えてくれた。「自動車基礎知識コーナー」には随所に彼の創意とこだわりが見られ、例えば、バイクのイラストには、ベトナムから日本へ自動車を学びに来てくれた人たちの助けになりたいという思いが込めら

れている。以下にそのイラストを紹介する（図1～図6）。

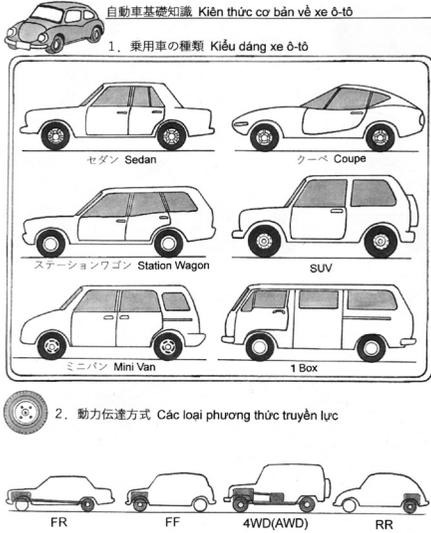


図 1

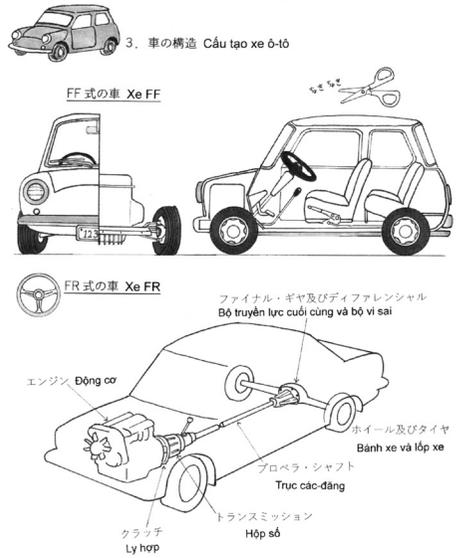


図 2

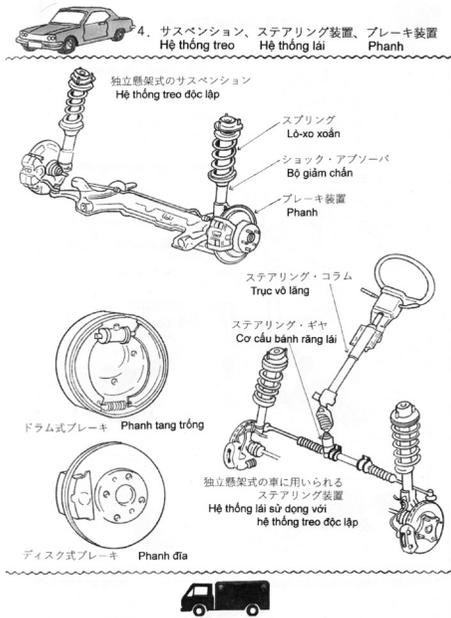


図 3

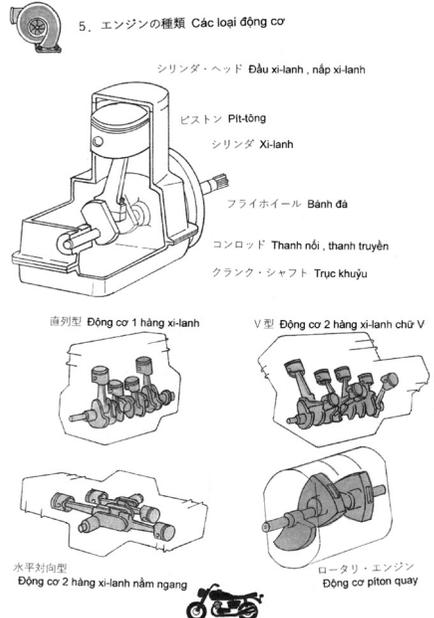


図 4

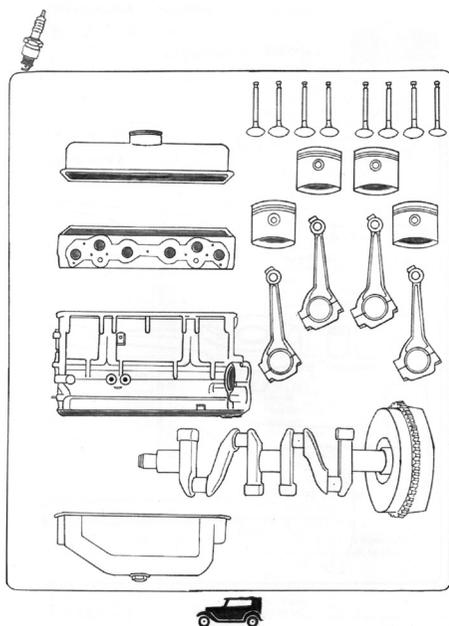


図5

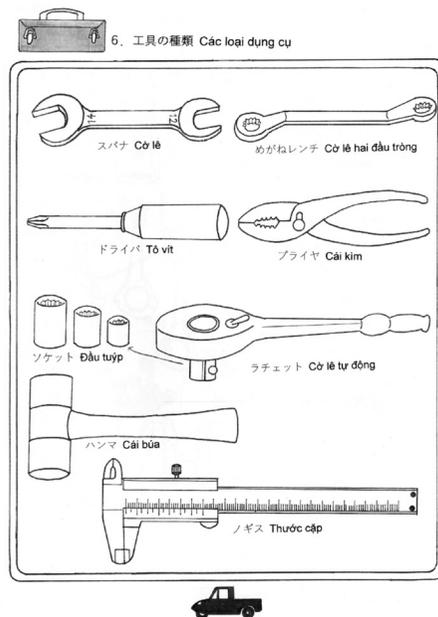


図6

3. 語彙収集の方針

本書は対訳集であり、辞書や事典ではない。対訳集である理由は、「ハンドブック」という名が示すように作業を伴う実習授業で手に持って扱えるサイズを前提としているからである。一方で、編著者の力量不足により辞書、事典になりえなかったことも背景にある。

本書を使用する対象者は、自動車工学に関する知識レベルがゼロであることを想定している。ゼロからスタートして2年間で専門の体系を一定レベルまで学び、同時に二級自動車整備士の国家資格の取得を目指す。ゼロからのスタートという点では、日本語を母語とする学生と同じであるが、本書の使用対象者は、母語ではない言語を用いて専門の体系を学ぶという点で日本語母語者と条件が異なる。このような学習者にとって、専門用語だけを取り上げた対訳集では意味がない。なぜなら、彼らの頭の中にはそもそも「母語でも」専門の概念が入っていないからである。専門の学習とは単に到着地点である専門用語を覚えればよいというものではない。専門の概念を解きほぐしながら理解し、頭の中に新しい概念の体系を作り上げていくこの過程こそが専門の学習であり、教育である。このような場合に、対訳集に必要なのは、専門用語そのものより、むしろ専門の用語や概念を理解するために必要な、または理解の助けになるような語彙を収集することである。例を挙げると、外来語であれば、部品名称を構成する基礎的な語や語より小さい単位の語構成要素であり、字音語（音読みをする漢字語、漢語）であれば、専門用語とまでは言えな

いが工学分野の専門概念を説明するのにカギとなる漢字2字の語であり、また、和語であれば、作業の手の動きを説明する語や物の状態、形状を表す語などである。一方、本書の使用対象者の日本語レベルとしては中級段階、日本語能力試験（JLPT）であればN3～N2のレベルを想定しており、それより初段階に属する平易な語は不要である。これらのことを踏まえて、本書の語彙収集の方針とした。

本書には前身がある。2003年3月から2018年にかけて9回の改訂を重ねてきた『自動車用語日中対照ハンドブック』（途中から『自動車整備用語日本語・中国語対照ハンドブック』と改名。以下「中国語ハンドブック」とする）である。「中国語ハンドブック」は中国語を母語としている者を対象としているため、彼らにとっての弱点とされる外来語が主に収集されている。日本語では機械・電気工学分野の専門概念を説明する重要な語彙に、漢字2字の字音語が多く見られるが、中国語と表記上同形であるものが少なくない¹。中国語を母語とする学習者は字を見て「意味が分かる」もしくは「意味が推測できる」ことが期待できる。一方、日本語では自動車の部品名称のほとんどが英語由来の外来語であるのに対し、中国語では意味を表す言葉（視点を変えれば「意識外来語」と言える）が用意されている。日本語と中国語を対照させれば、専門用語の知識がなくても、一見意味のなさそうに見えるカタカナの羅列に対し意味が見えてくると考えたわけである。それは、一文字一形態素という中国語の特徴から来るものというよりは、日本語と中国語とでの外来概念の受容の方法の違い、つまり、日本語では音を軸として外来概念（例えば、自動車部品の名称）を受容し、中国語では意味を軸として受容してきたということであろう。そこで、ベトナム語はどうかと言うと、ベトナム語は「漢字使用圏」でないが、中国語と似て、どちらかと言うと意味を軸として外来概念を受容していることがわかる。ベトナム語の自動車関連用語は、一部にフランス語由来の外来語があるが、日本語の外来語の使用量の比ではない。多くは固有語か、日本語の字音語に相当する中国語由来の語（「漢越語」）である。従って、「中国語ハンドブック」同様に、外来語語彙をベトナム語と対照させることによって意味が見えてくると考えたのである。このことは外来語に限らず、次に述べる字音語や和語においても同様である。

「中国語ハンドブック」で排除した字音語（音読みをする漢字語、漢語）を、ベトナム語の本書においては積極的に収録したのは言うまでもない。字音語に関しては、可能な限り漢字2字の語を一単位として見出し語にしている。自動車工学に限ったことではないが、日本語では専門分野の抽象的概念を表す語が、漢字2字の字音語の組み合わせか、または、それに付着する字音接辞によって構成されていることが多い。学習者にとって意味を把握しにくい長い語形の漢字語であっても、実は漢字2字の語の組み合わせか字音接辞の付着である。従って、特に専門分野においては、漢字2字の語を一つのユニットとし、同時に、接辞の意味に注意しながら語の意味を把

1 ここで言う「表記上同形」とは同じ漢字を使った語であることを指している。中国語の簡体字と日本語の漢字の字体の違いを考慮すると、「発電」と“发电”など、単純に「同形」とは言えないものも含まれている。

清水勝昭:専門日本語教育の視点から見た『自動車整備用語日本語・ベトナム語対照ハンドブック』の編集について

握していくことが大切である。

本書に特徴的なのが和語である。一つ目は、手の動作や、機械の動き、働きを表す和語動詞である。これは、学習者が実習授業を受ける場面、その作業の解説テキストを読む場面などで、必要となる語彙である。特に、本書は自他動詞のペアのある動詞については自動詞と他動詞の両方を収録している。例えば「ゆるむ」(自動詞)と「ゆるめる」(他動詞)では、音形が似ていながら、使用場面が異なり、その上、「～ている」、「～てある」、「～ておく」の形に接続した場合に、話者の意図することが著しく異なり(例えば「ゆるんでいる」と「ゆるめてある」、「ゆるめておく」)、誤用すれば誤解を招きかねない。その点を意識してもらいたいという理由からである。二つ目は、動詞の連用形と同形の名詞(いわゆる「連用形名詞」)である。例えば、「ねじり」、「ずれ」、「ひずみ」、「剥がれ」、「漏れ」などであるが、自動車整備の分野では特に、部材や部品の不具合、不都合な状態変化を表す語に多い。三つ目は、「はぐるま」、「ばね」、「はしご」、「すれ違う」など、日本語母語者にとっては一見、容易で、日常的に思える語である。その中には日本語学習の過程から漏れて、多くの学習者にとって未習になっているものがある。

自動車整備分野の専門教育における外来語語彙と和語語彙の問題は、漢字使用語彙に比べて、顕在化しにくく、専門日本語教育においても意識的に取り上げる必要がある。

4. お わ り に

筆者の勤務校のベトナム人留学生からは、「漢字とカタカナが難しい」という声を多く聞く。「漢字使用圏」の中国人留学生にとっては漢字使用語彙の敷居が低いこと、そして、自言語に英語由来の外来語を多く持つ言語を母語とする学生にとっては外来語の習得に手掛かりがあることと比べると、ベトナム語母語者は、漢字使用語彙、外来語語彙、いずれに対しても学習上有利な手掛かりを持たない²。その点で、確かにベトナム人留学生に特徴的な難点が存在する可能性はある。本書は、その文脈から生まれるべきして生まれたものであると言えよう。しかし、本書が現場でその学習上の問題を解決できるほどのツールになっているとは言い難いのも事実で、課題多きことを痛感する。それと同時に、このことは、専門日本語教育が単に語彙の問題に留まるものではないこと、そして、専門日本語教育という境界線は教育を行う側によって便宜上設けられたもので、学習者にとっては「一般」も「専門」もなく日本語は一つであることの証明である。

最後になりますが、本投稿についてご提案とアドバイスをいただいた森本一彦教授に心より深く感謝申し上げます。

2 ベトナム語には日本語の字音語に相当する中国語由来の「漢越語」が存在し、ある使用比率では6割を占めると言われる。漢越語の知識を漢字教育に活用しうる可能性はあるが、現在のベトナム語は「漢字使用圏」ではないため、表記としての漢字は意味理解の手掛かりになりえない。

参 考 書 籍

- 清水勝昭, 谢珉編著, 自動車整備用語日本語・中国語対照ハンドブック2018年度版, 中日本自動車短期大学 (2018)
中日本自動車短期大学監修, 清水勝昭編著, 自動車整備用語日本語・ベトナム語対照ハンドブック, 三恵社 (2022)